

## アドバンスドコードエディタ

Maple 17 では、Maple コードを記述するためのエディタが刷新されました。このエディタには、Maple コードの記述、読み込み、デバッグを簡単に行うための多くの機能 (構文のハイライト、括弧のマッチング、コマンド補完、自動インデントなど) が用意されています。新しいエディタを使用して、スタートアップコードの管理、コードエディタのインライン化、埋め込みコンポーネントへのコードの追加などを行うことができます。

新しいコードエディタの機能:

- 構文のハイライト: キーワードと演算子を色付けすることで、入力ミスを見つけやすく、コードブロックを識別しやすくします。
- 括弧のマッチング: 新しく括弧を入力したり、既存の括弧の隣にカーソルを合わせると、対応する括弧がハイライトされます。これにより、コードを作成したり理解したりすることが簡単になります。
- クォートのマッチング: シングルクォート、ダブルクォート、バッククォートが適合していない箇所や欠落している箇所がハイライトされます。
- 自動インデント: 新しいモジュール、プロシージャ、または if/then 文の 1 行目を入力すると、後続行が自動的にインデントされます。
- コマンド補完: Maple 関数の最初の数文字を入力すると、コマンド補完によって関数名が自動的に入力され、コードをすばやく記述することができます。
- エラーチェック: 入力している最中にコードのエラーが自動的にチェックされるため、問題をすぐに見つけることができます。
- インポート/エクスポート: .mpl や他のテキストフォーマットからコードエディタにコードを直接インポートできます。また、コードエディタのコンテンツをテキストファイルにエクスポートすることができます。

アドバンスドコードエディタのすべての機能は、Maple の 3 つの領域に組み込まれています。

### i. スタートアップコードエディタ

Maple ワークシートのスタートアップコードエディタを開くには、[編集] > [スタートアップコード] を選択するか、ツールバーの [スタートアップコードを編集] ボタンをクリックします。



以下の新しいショートカットキーを使用してスタートアップコードエディタにアクセスすることもできます。

Windows および Linux: SHIFT + CTRL + E

Mac OS X: SHIFT + COMMAND + E

詳細は、[スタートアップコードの編集](#)を参照してください。

## ii. コードエディタ

ワークシートにコードエディタを挿入するには、[挿入] > [コードエディタ] を選択するか、ツールバーの [コードエディタを挿入] ボタンをクリックします。



例: コードエディタ

```
1 ##This is a sample procedure
2 MyProc := proc(var::truefalse)
3
4     if var then
5         print("True");
6     else
7         print("False");
8     end if;
~
```

詳細は、[コードエディタ](#)を参照してください。

## iii. 埋め込みコンポーネント

コンポーネントを右クリックして目的の **[動作の編集]** を選択することで、埋め込みコンポーネントのコードを変更することができます。

詳細は、[埋め込みコンポーネント](#)を参照してください。

## 参照

[コードエディタ](#)、[埋め込みコンポーネント](#)、[スタートアップコードエディタ](#)、[動的アプリケーションワークシート](#)